資料３－２

これまでの議論から抽出される多様な切り口

（※）前回までの議論の中から、今後検討を進める中で考えられる議論の切り口を、検討チーム事務局の責任において抽出したもの。

（目指すべき在り方への示唆）
・自主的な取組やゴールベース規制がふさわしい領域と、そこでの行政の役割
・静態的な規制へ変化の契機を導入
・インセンティブ構造にのっとった制度や規制
・制度的・組織的な「記憶」
・規制の量と質
・ライフサイクル（審査、検査、安全性向上評価）

（議論において欠かせない視点）
・事故の「教訓」と制度的・組織的な「記憶」
・規制の量と質
・施設のライフサイクル（審査、検査、安全性向上評価）

（科学技術の規制）
・事前チェック（pre-scriptive、チェックリスト、ガイドライン）の困難
・同時並走性
・当事者性
・規制のリデザインと原子力規制
・細かすぎる規制の逆機能
・進化論的な見方（環境への対応、結果としての変化）

（取組の正当化）
・正当化の実質（必要性や効果）とプロセス
・プロセスによる正当化（L）と専門的知見による正当化（R）の関係
・他者の視点

（インセンティブ構造）
・経済原理（投資とリターン）では解決できない領域
・お金以外のインセンティブ構造の存在
・インセンティブは、当事者に聞かなければ分からない。そのプロセスの透明性も重要

（組織風土、組織文化）

・運用論なき制度論は無意味。きれいごとでない議論が重要。
・ELSI の観点から、行動を変化させる仕組みが重要
・人事と金

（ステークホルダー）

・学会や学協会もステークホルダー（規格や標準を作るから）
・（規制―被規制を超えた）大きなネットワークとしての観方
・自治体という重要なステークホルダーの存在
・自治体の（ある施設について）継続的に物事を見ているという立場をポジティブに評価すべし

（外部環境）

・米国のような産業としてのダイナミズムがないことに留意
・原子力のマーケットがシュリンクしているなど、エネルギー政策と実態のずれに留意。
・日本政府として原子力を推進していることに留意

（フィードバック・ループ）

・フィードバック・ループの体系的整理により課題を析出せよ
・検査結果は「基本設計」にフィードバックされるのか。
・安全上のグレードや緊急度に応じたフィードバック
・安全性向上評価の問題点
・問題を検知・修正するループの動作検証と実装が課題。

（リスク情報）

・PRA の使い方の問題（前提条件の存在や、リテラシー）
・安全目標の議論に関しては、米英等との背景・文脈の違いに留意、自然現象のリスクなど

（バックフィット）

・CBA などの議論